

平成 22 年度 第 3 回化学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日時： 平成 22 年 12 月 13 日（月） 17 時 30 分から 19 時 20 分まで

II. 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：幅田委員長、及川副委員長、木村委員、松山委員、小林委員
（事務局） 井畑事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

- (1) 幅田委員長の開会挨拶
- (2) 事務局から資料の説明・確認と協議内容詳細が提示された。
- (3) 本日の議事録担当を決定した。
- (4) 第 2 回議事録を確認し、若干の語句・出席者を修正したのち承認された。
- (5) 学士力実現に必要な ICT 活用の授業デザイン・授業モデルについて、種々の資料を基に様々な角度から検討した。

● 学士力実現に必要な ICT 活用の授業デザイン・授業モデルには、次のような観点が重要だとの意見が出された。

- ・ 学びの習慣付け・動機付け
- ・ 学習を定着させるような授業の振り返りができるしくみ
- ・ 教員主導ではなく、学生主体の学び
- ・ 自ら考え自発的に発想できる人材育成の方法
- ・ 幅広い教養に基づいた「専門的な教養」を身につけさせる
- ・ 他分野と交流し、社会に発信できる人材育成
- ・ 大学教育と社会との関連付けが重要
- ・ 5 年後くらいでも使える授業デザイン・授業モデルの提案が必要

● 上記のような観点からすれば、座学だけではなく、体験学習、グループ学習、上級生によるファシリテーターの活用など、斬新なアイデアを盛り込んだ授業デザイン・授業モデルを提案して行きたい、との意見も出された。

● これらの意見を受けて、事務局から経営工学分野でのモデル事例が追加資料として配付され、補足説明が行われた。

● これらの意見に対し、文系とは異なり化学分野では実験授業および基礎の積み重ねが非常に重要である、体験学習に基づく自発的な学習は化学分野では実験授業でかなりの程度行われているはずであり、座学と実験の授業をさらに有機的・効果的に組み合わせたモデルを考えて行きたい、との結論に至った。

● またその際、化学の初学者、非化学系の学生をも視野に入れた授業デザイン・授業モデルを構築することになった。

2. 次回までの宿題

- ・本日の検討を受けて、今回提案されていた 2 種類の授業デザイン・授業モデルをさらにブラッシュアップし、次回委員会までに担当の委員 2 名が修正案を提出することになった。

V 次回の開催日程

次回委員会は平成 23 年 2 月末を目処に、事務局が日程調整を行うことになった。

以上